



## 2021年7月期 決算短信(日本基準)(連結)

2021年9月3日

上場会社名 ティーライフ株式会社  
 コード番号 3172 URL <https://www.tealifeir.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西上 節也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 伊藤 和也  
 定時株主総会開催予定日 2021年10月26日 配当支払開始予定日 2021年10月27日  
 有価証券報告書提出予定日 2021年10月26日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東

TEL 0547-46-3459

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年7月期の連結業績(2020年8月1日～2021年7月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期	11,719	10.8	901	81.7	924	75.8	704	67.4
2020年7月期	10,577	13.9	496	45.7	525	47.8	420	73.8

(注) 包括利益 2021年7月期 700百万円 (67.2%) 2020年7月期 419百万円 (74.0%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年7月期	165.81		13.6	11.5	7.7
2020年7月期	99.03		8.8	7.5	4.7

(参考) 持分法投資損益 2021年7月期 百万円 2020年7月期 百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年7月期	8,307	5,460	65.7	1,284.93
2020年7月期	7,756	4,930	63.6	1,160.07

(参考) 自己資本 2021年7月期 5,460百万円 2020年7月期 4,930百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年7月期	964	121	349	2,646
2020年7月期	847	1,137	638	1,925

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年7月期		10.00		20.00	30.00	127	30.3	2.7
2021年7月期		20.00		31.00	51.00	216	30.8	4.2
2022年7月期(予想)		26.00		26.00	52.00		31.2	

### 3. 2022年7月期の連結業績予想(2021年8月1日～2022年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,906		971		968		707		166.50

(注) 2022年7月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 以外の会計方針の変更 : 無  
 会計上の見積りの変更 : 無  
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年7月期	4,250,000 株	2020年7月期	4,250,000 株
期末自己株式数	2021年7月期	159 株	2020年7月期	97 株
期中平均株式数	2021年7月期	4,249,893 株	2020年7月期	4,249,903 株

(参考)個別業績の概要

2021年7月期の個別業績(2020年8月1日～2021年7月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期	4,571	2.4	364	139.7	386	119.1	306	65.2
2020年7月期	4,683	4.1	152	22.1	176	17.9	185	67.0

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2021年7月期	72.19	
2020年7月期	43.70	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2021年7月期	6,744		4,712		69.9		1,108.83	
2020年7月期	6,714		4,573		68.1		1,076.15	

(参考) 自己資本 2021年7月期 4,712百万円 2020年7月期 4,573百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

(決算説明資料及び決算説明会の開催について)

決算説明資料は、本決算短信とあわせて当社ホームページに掲載しております。また、当社は、2021年9月10日(金)に機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。

(金額の表示単位の変更について)

当社の連結財務諸表に掲記される科目、その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度より百万円単位で記載することに变更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	14
(重要な後発事象) .....	14
4. その他 .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

#### 当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響下における経済活動の制限や個人消費の低迷が続くなか、政府による各種政策やワクチン接種が進むことによる海外経済の回復を受け、一部で持ち直しの動きがみられるものの、感染力の強い変異株の出現等による感染再拡大を受け、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が度々発出されており、極めて先行き不透明な状況が続いてまいりました。

小売・卸売業界におきましては、コロナ禍での新しい生活様式がもたらす消費行動の変化により、通信販売やテレビショッピング等の在宅で利用可能なチャネルや、感染予防関連の衛生商品が好調となる一方、百貨店や大型ショッピングモール等実店舗販売は、時短営業や外出自粛等の影響を大きく受けるなど、業態や商材により明暗が分かかれ、極めて厳しい状況が続いております。通信販売業界におきましては、巣ごもり需要の高まりを背景にEC（電子商取引）を中心に好調に推移した一方、参入企業の増加による競合他社との競争激化が進行しております。

このような経営環境のなか、当社グループ（当社及び連結子会社）は安定的かつ継続的な成長と企業価値の向上を目指し、「進化するウェルネス&ライフサポート企業」を将来のビジョンとし、「将来の成長に向けた挑戦」をスローガンとした中期経営計画の達成に向け、各事業の拡大及び利益確保に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度における売上高は11,719百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

損益面では、卸売事業における大幅増収、小売事業における広告宣伝費の運用見直し等により、営業利益は901百万円（同81.7%増）、経常利益は924百万円（同75.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、704百万円（同67.4%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、セグメント利益については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

#### (小売事業)

小売事業では、広告出稿及びカタログ配布の効率化により費用対効果の改善を中心としたコスト低減に取り組むとともに、スマホアプリの利便性向上や動画コンテンツの拡充等によりインターネット経由での受注促進を図り、デジタルシフトを推進してまいりました。また、新規顧客開拓の主力商品の一つである静岡県産茶ノ実油配合の「h u g m（ハグム）ナチュラルシャンプー」のリニューアル及び関連商材の拡充、静岡県島田市の「島田の逸品」への認定、商品ブランドサイトの立ち上げ等のプロモーションを強化し、ブランド価値及び認知度向上による売上拡大に取り組んでまいりました。ECモールにおいては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者ニーズの変化に対応した商品の販売に注力し、健康・美容関連商品、育児関連商品、ペット用品等が好調に推移いたしました。海外販売においては、中国の大手モールT m a l l 国際にて、健康茶の受注が伸びてまいりました。

この結果、売上高は6,401百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント利益は、205百万円（前年同期比412.1%増）となりました。

#### (卸売事業)

卸売事業におきましては、実店舗販売の小売店向けの雑貨等の販売においては、コロナ禍での外出自粛の影響や営業活動の制限により苦戦したものの、テレビショッピング向けの販売においては、巣ごもり需要により好調となりヘルスケア商品が伸びてまいりました。また、グループ内の物流拠点及び営業拠点等の機能集約や、ノウハウ共有による業務効率改善を図り、収益力強化に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は4,803百万円（前年同期比20.1%増）、セグメント利益は、450百万円（同48.5%増）となりました。

#### (プロパティ事業)

プロパティ事業におきましては、袋井センター及び掛川センターにおける賃貸エリアの拡大や設備メンテナンスによる賃貸稼働率の向上、他社出荷業務の受託量拡大に取り組み、売上が伸びてまいりました。また、他社出荷業務のオペレーションの見直しや業務効率化による人員配置の最適化に注力し、収益性の改善も進みました。

この結果、売上高は514百万円（前年同期比41.4%増）、セグメント利益は、231百万円（同60.0%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、8,307百万円（前連結会計年度末比551百万円増）となりました。

流動資産の増加（同684百万円増）は、主に現金及び預金が699百万円増加したことによるものであります。

固定資産の減少（同133百万円減）は、主に投資その他の資産のその他が97百万円、建物及び構築物（純額）が50百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、2,846百万円（前連結会計年度末比20百万円増）となりました。

流動負債の増加（同215百万円増）は、主に買掛金が112百万円、未払法人税等が64百万円増加したことによるものであります。

固定負債の減少（同194百万円減）は、主に長期借入金が195百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、5,460百万円（前連結会計年度末比530百万円増）となり、この結果、自己資本比率は65.7%となりました。

純資産の増加は、主に利益剰余金が534百万円増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ720百万円増加し、2,646百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、964百万円（前年同期比13.8%増）となりました。

これは、主に法人税等の支払額229百万円があったものの、税金等調整前当期純利益992百万円、仕入債務の増加額112百万円、たな卸資産の減少額110百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、121百万円（前年同期は1,137百万円の使用）となりました。

これは、主にその他162百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、349百万円（前年同期は638百万円の獲得）となりました。

これは、主に長期借入金の返済による支出179百万円、配当金の支払額169百万円があったことによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2020年7月期	2021年7月期
自己資本比率 (%)	63.6	65.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	53.8	71.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	1.4	1.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	251.2	408.5

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注) 1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式を除く。）により計算しております。

3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

## (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症についてワクチン接種が進む一方、変異株の出現等により依然として収束時期が見通せず、予断を許さない状況が続くと予想されます。

小売・卸売業界におきましては、コロナ禍でも好調なチャネルや商材への競争激化が進むとともに、感染状況により変動する消費動向への迅速な対応が要求される状況が続くと見込まれます。また、不動産賃貸業界においては、事務所や倉庫の地方移転等による需要増加が見込まれる一方、賃貸先の業績悪化による影響が懸念されま

す。このような環境のもと、当社グループは、更なる躍進による成長と長期的な企業価値向上を目指し、「進化するウェルネス&ライフサポート企業」という将来のビジョンのもと、「R e b o r n !」をスローガンとした2022年7月期から2024年7月期までの中期経営計画を策定いたしました。

新型コロナウイルス感染症の流行長期化とともに大きく変化した経済状況、消費者のライフスタイルに柔軟に対応するため、更なるDX改革や新たな商品開発を推進するとともに、グループ間での情報システム、物流・営業拠点、販路等の共有による業務効率化及びコストコントロールの徹底を加速させます。加えて、シナジー創出に注力し、経営資源の最適化による収益最大化に努めるとともに、戦略的M&Aの推進や新たな収益不動産の購入等への積極投資を進め、安定的かつ強固な経営・財務基盤の構築に取り組んでまいります。また、成長とともに社会に貢献する企業を目指し、コンプライアンスの徹底に加え、気候変動リスク等を鑑み、SDGsへの取り組みも一層強化し、社会からの要請及びステークホルダーの期待に応えられるよう努めてまいります。

これらの状況を勘案したうえで、2022年7月期の連結業績見通しにつきましては、売上高11,906百万円、営業利益971百万円、経常利益968百万円、親会社株主に帰属する当期純利益707百万円を見込んでおります。なお、2022年7月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績見通しは当該会計基準に基づいた予想となっており、当該基準等適用前の前期の実績値に対する増減率は記載していません。

業績予想については、今後の感染拡大や収束の状況により業績は大きく変動する可能性があります。業績予想の修正の必要性が生じた場合は、速やかに開示いたします。

## (5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、株主への利益還元を経営の重要な課題と位置づけており、企業体質の強化及び今後の事業拡大のための内部留保の充実を勘案しつつ、配当性向30%を目途に、每期安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当期の配当につきましては、株主の皆様への利益還元の機会を充実させるため、中間配当金としては、1株当たり20円を実施いたしました。期末配当金につきましては、上記の基本方針に基づき、当期業績を踏まえて、2021年8月27日に公表した「業績予想の修正および配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」に記載のとおり、前期に比べ11円増配の1株につき31円の配当とさせていただきます。これにより通期では前期に比べ21円増配の51円の配当(配当性向30.8%)となります。

なお、内部留保金につきましては、今後の業界の競争激化に対抗しうる高付加価値商品の研究・開発、DX改革の推進への対応のほか、事業拡大のための不動産購入、M&Aなど、将来の企業価値を高めるための投資資金として、適切に活用してまいります。

また、次期の配当につきましては、次期の連結業績見通し及び上記基本方針を勘案し、1株当たり中間配当金26円、期末配当金26円の年間配当金52円を予定しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当連結会計年度 (2021年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,965	2,665
受取手形及び売掛金	1,051	1,183
有価証券	26	—
商品及び製品	554	499
仕掛品	57	47
原材料及び貯蔵品	79	35
その他	70	57
貸倒引当金	△14	△10
流動資産合計	3,792	4,477
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,195	1,200
減価償却累計額	△403	△458
建物及び構築物 (純額)	792	742
土地	2,429	2,429
その他	195	213
減価償却累計額	△158	△167
その他 (純額)	37	45
有形固定資産合計	3,259	3,217
無形固定資産		
のれん	101	80
その他	53	55
無形固定資産合計	155	135
投資その他の資産		
投資有価証券	171	197
繰延税金資産	78	78
その他	303	206
貸倒引当金	△4	△5
投資その他の資産合計	549	477
固定資産合計	3,963	3,830
資産合計	7,756	8,307

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当連結会計年度 (2021年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	433	546
1年内返済予定の長期借入金	179	195
未払金	452	409
未払法人税等	147	211
賞与引当金	58	58
役員賞与引当金	4	13
その他	148	203
流動負債合計	1,424	1,639
固定負債		
長期借入金	1,011	815
退職給付に係る負債	71	72
資産除去債務	72	72
その他	247	246
固定負債合計	1,402	1,207
負債合計	2,826	2,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	356	356
資本剰余金	326	326
利益剰余金	4,234	4,769
自己株式	△0	△0
株主資本合計	4,917	5,452
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	18
為替換算調整勘定	0	△10
その他の包括利益累計額合計	12	8
純資産合計	4,930	5,460
負債純資産合計	7,756	8,307



(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
売上高	10,577	11,719
売上原価	5,217	6,282
売上総利益	5,359	5,436
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,792	1,545
荷造運搬費	838	857
貸倒引当金繰入額	11	5
役員報酬	157	141
給料及び手当	743	717
賞与引当金繰入額	54	42
役員賞与引当金繰入額	4	13
退職給付費用	28	23
その他	1,232	1,189
販売費及び一般管理費合計	4,863	4,534
営業利益	496	901
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	0	0
為替差益	—	17
デリバティブ評価益	3	—
その他	31	8
営業外収益合計	37	28
営業外費用		
支払利息	3	2
会員権売却損	—	1
為替差損	3	—
その他	1	1
貸倒引当金繰入額	—	0
営業外費用合計	8	5
経常利益	525	924
特別利益		
補助金収入	—	23
保険解約返戻金	47	50
特別利益合計	47	73
特別損失		
固定資産除却損	4	6
減損損失	7	—
特別損失合計	11	6
税金等調整前当期純利益	561	992
法人税、住民税及び事業税	188	291
法人税等調整額	△47	△3
法人税等合計	140	287
当期純利益	420	704
親会社株主に帰属する当期純利益	420	704

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
当期純利益	420	704
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	7
為替換算調整勘定	△2	△11
その他の包括利益合計	△1	△4
包括利益	419	700
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	419	700
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	356	326	3,898	△0	4,582
当期変動額					
剰余金の配当			△84		△84
自己株式の取得					—
親会社株主に帰属する当期純利益			420		420
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	335	—	335
当期末残高	356	326	4,234	△0	4,917

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	10	3	14	4,596
当期変動額				
剰余金の配当				△84
自己株式の取得				—
親会社株主に帰属する当期純利益				420
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	0	△2	△1	△1
当期変動額合計	0	△2	△1	334
当期末残高	11	0	12	4,930

当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	356	326	4,234	△0	4,917
当期変動額					
剰余金の配当			△169		△169
自己株式の取得				△0	△0
親会社株主に帰属する当期純利益			704		704
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	—	534	△0	534
当期末残高	356	326	4,769	△0	5,452

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	11	0	12	4,930
当期変動額				
剰余金の配当				△169
自己株式の取得				△0
親会社株主に帰属する当期純利益				704
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	7	△11	△4	△4
当期変動額合計	7	△11	△4	530
当期末残高	18	△10	8	5,460

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	561	992
減価償却費	88	89
減損損失	7	—
のれん償却額	28	20
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2	0
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△0	9
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3	1
受取利息	△2	△1
受取配当金	△0	△0
為替差損益 (△は益)	2	3
支払利息	3	2
会員権売却損益 (△は益)	—	△1
投資有価証券評価損益 (△は益)	△0	—
デリバティブ評価損益 (△は益)	△3	—
補助金収入	△12	△23
固定資産除却損	4	6
売上債権の増減額 (△は増加)	△189	△131
たな卸資産の増減額 (△は増加)	144	110
仕入債務の増減額 (△は減少)	116	112
未払金の増減額 (△は減少)	113	△39
その他	71	22
小計	939	1,170
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△3	△2
補助金の受取額	10	23
法人税等の支払額	△102	△229
営業活動によるキャッシュ・フロー	847	964

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△121	△39
定期預金の払戻による収入	111	59
有価証券の償還による収入	—	25
有形固定資産の取得による支出	△1,274	△36
有形固定資産の除却による支出	△4	△0
無形固定資産の取得による支出	△14	△23
投資有価証券の取得による支出	—	△29
投資有価証券の償還による収入	20	—
事業譲受による支出	△21	—
会員権の売却による収入	—	2
その他	167	162
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,137</b>	<b>121</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金返済による支出	△276	△179
配当金の支払額	△84	△169
その他	0	△0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>638</b>	<b>△349</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△15
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>343</b>	<b>720</b>
現金及び現金同等物の期首残高	1,582	1,925
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>1,925</b>	<b>2,646</b>

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、独立した経営単位である当社及び連結子会社が、当社グループの経営方針のもと、それぞれの事業における包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは、当社並びに個々の連結子会社が営む各事業を最小単位とした事業セグメントから構成されており、また、経済的特徴及び商品・サービスの要素が概ね類似する複数の事業セグメントを集約し、「小売事業」、「卸売事業」及び「プロパティ事業」の3つを報告セグメントとしております。

「小売事業」では、主に健康茶、健康食品、化粧品、ベビー用品、キッズ家具を一般消費者に通信販売しております。

「卸売事業」では、主に食品、生活雑貨を通信販売会社や小売店等に販売しております。

「プロパティ事業」では、主に自社不動産を活用し、不動産賃貸及び出荷業務の受託を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	プロパティ事業			
売上高						
外部顧客への売上高	6,213	4,000	363	10,577	—	10,577
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5	0	6	12	△12	—
計	6,218	4,001	370	10,590	△12	10,577
セグメント利益	40	303	144	487	8	496
セグメント資産	3,476	1,232	2,411	7,119	636	7,756
その他の項目						
減価償却費	43	5	39	88	—	88
のれんの償却額	28	—	—	28	—	28
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	59	14	1,298	1,372	—	1,372
のれんの未償却残高	101	—	—	101	—	101

(注) 1. セグメント利益の調整額8百万円は、セグメント間取引消去等であります。セグメント資産の調整額636百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金)に係る資産等であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	プロパティ事業			
売上高						
外部顧客への売上高	6,401	4,803	514	11,719	—	11,719
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	3	19	27	△27	—
計	6,405	4,806	534	11,746	△27	11,719
セグメント利益	205	450	231	886	15	901
セグメント資産	3,722	1,697	2,347	7,768	539	8,307
その他の項目						
減価償却費	54	6	28	89	—	89
のれんの償却額	20	—	—	20	—	20
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	45	6	20	72	—	72
のれんの未償却残高	80	—	—	80	—	80

(注) 1. セグメント利益の調整額15百万円は、セグメント間取引消去等であります。セグメント資産の調整額539百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金)に係る資産等であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
1株当たり純資産額	1,160円07銭	1,284円93銭
1株当たり当期純利益金額	99円03銭	165円81銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)	当連結会計年度 (自 2020年8月1日 至 2021年7月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	420	704
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利 益金額(百万円)	420	704
期中平均株式数(千株)	4,249	4,249

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



4. その他

該当事項はありません。